

情報システム講座

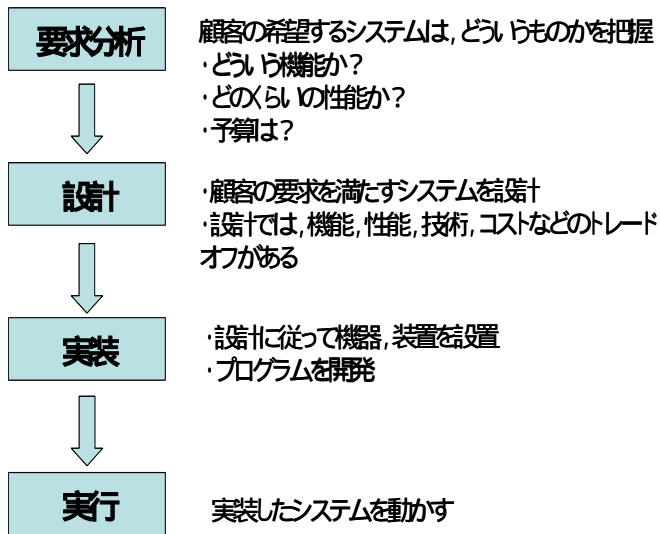
計算機を使ったシステム化の方法を教育・研究 システムを作り出す前に、十分に分析や設計を行うことが重要

システムエンジニアリング(SE)と呼ばれる業種 - これは極めて重要な仕事, 労働集約的で大変な仕事 - が行っていることを, 理論的, 学問的に, かつ実践的に体系化

ソフトウェア工学やシステム工学が基礎となり, 様々な方法論やモデルの適用可能性・限界・使い道を探りながら, システムを開発する方法論を多面的に教育・研究

ソフトウェア工学とは？

- ソフトウェア開発を、要求分析・設計・実装に分けて、ユ - ザや発注者の意図を漏れなく正確に把握したり、ソフトウェアの内部の実現方式などを確定して、以降には誤りや曖昧さを伝えない。この分析や設計の方法論や、それを支援するツールの研究を行う。



研究テーマ

- ソフトウェア / システム生産技術
- コラボレーション / コンカレントエンジニアリング
- 人工知能とエキスパートシステム
- 性能評価技術
- 図面処理技術
- インターネット / マルチメディア教材

- 卒業研究生も大学院生も、大学の中に留まらない、学外の学会レベルで発表できるようなテーマを研究
- 機械工学科の中の情報システム講座は、極めて幅広い適用可能分野をもち、これが学生にも講座にも大きな強み
- 大学の外との連携を重要なものと考え、企業の研究者と共同研究を行う。

研究を進める上で常に念頭に置いていること

- 実際から遊離しないこと、実際から離れていてもその距離を認識できること
- 研究に使う方法やツールは、あくまでも、その適用条件をよく知り検討した上で使うことが重要